

特別賞

地球かんきょうくゴミをへらそうく

御田小学校 五年 小林紅陽

私は、ゴミをへらそうくについて考えました。まず、ゴミを一番たくさんだしている国について調べました。焼却炉の数は日本が1243、アメリカが351、フランスが188、ドイツが154、イギリスが55、スウェーデンが28となっていました。その中でも日本がダントツ一位で、焼却炉の数が多いいことはゴミが多いということです。そのゴミの中でも食品ロスとこのことを知っていますか？食品ロスというのは、本来なら食べられたものがゴミになってしまいうことです。ちなみに世界では、一日に2万5000人以上がうえやえいよう失調で亡くなっています、食品ロスは、とてももったいないことです。特に、日本の食品ロスの量は500万トンから900万トンにもなるそうです。これは、7歳の子どもも、760万人、1370万人の1年間に食べる量に相当する数字です。次に、食品ロスの主な理由について調べてみました。まず、料理を食べのこした理由。料理の量が多かった、食べなかつた家族がいた、きらいなものがあつたなど。次に、食べのこした料理を捨てた理由。食べる見こみがない、ほぞんしたけど、いたんでしまったなど。食品を使用せずに捨てた理由。食品の消費期げんがすぎた、食品が中とはんぱにあまつたなど。最後に、調理した料理を食たくに出さずに捨てた理由。料理を作りすぎてしまった、料理を失敗したなどです。こんな風に理由はいっぱいあります。

そのロスをへらすには、私たちはどうしたらいいか。食べられる量だけ買う、いたみやすいものから調理する、のこつたものは、別の日にアレンジしたりして食べきる。そして、何よりも食べ物を大事にのこさず食べる事！だと思いません。最後にふれた、食べものを大事にすることについて考えました。今、日本の食品の約7わりは外国からゆ入されてきたものです。大量にゆ入しておきながら、その1/3のものを捨ててしまつていふのです。外国からの食料ゆ入がなくなれば、1年後には日本で3000人ががしするといわれていふます。そのかげには、世界の子ども達の私たちが考えられないかこくな労働があるのかもしれない事を私は知りました。世界の貧困、きがは、私たちにむえんのものではありません。私たちはもつと毎日のごはんが食べられること、雨風しのげる家にすみ、きれいなベッドでねむれる事を、幸せに感じなければなりません。ものを大事にする事、感謝する事が、世界で困つていふ人を救える一歩になり、結果、ゴミをへらし、地球もよごさないのではないでしようか。